

## 株式会社オプトラン

### 2023年12月期第1四半期決算説明会(機関投資家・アナリスト向け)QA サマリー

Q: 年初計画の売上高に占める新製品比率 50.0%程度であったが、2023年第1四半期の新製品比率は 37.0%程度となっている。そういったことを踏まえると、2023年2Q以降、新製品比率は1Qより高くなることが想定されるが、粗利は新製品比率に比例して高くなるのか？

A: 2023年1Qは、一部のALD装置の売上が年初想定より早く計上され、新型装置比率が年初想定より高い着地となり、粗利率を押し上げた。新型装置は一般的に粗利率が高いが、その構成によって全体の粗利率は異なってくる。

なお、粗利率のうち、1.0%ポイント程度は為替影響によるものである。

Q: ALD装置の2023年3月末時点の受注残はいくらか？

A: 2023年3月末受注残のうち、4割程度がALD装置である。

Q: 2023年2Q以降、ALD装置受注の見通しは？

A: 2022年は、北米スマートフォンメーカーのスマートフォンカメラモジュール向け受注が、好調であった。当該ニーズの受注は一服感があるが、今後、マイクロLED、半導体チップ等の用途で需要が伸びてくると思われる。

2023年1Qは、ALD受注が少なかったものの、スマートフォンカメラモジュールに加え、半導体関連の受注を獲得した。

Q: スマートフォンタッチパネル向け受注の金額は？受注を獲得した背景は？

A: スマートフォン関連受注の半分強がタッチパネル向けである。

北米スマートフォンメーカー以外も、スマートフォン高機能化を進めているなかで、当社の技術が評価され、受注を獲得した。

Q: 車載ディスプレイ向け受注の主な内容は？

A: 主にヘッドアップディスプレイ向け等の装置受注を獲得した。

Q: 2023年1Qに受注した装置の売上計上タイミングは？

A: 2023年1Q受注装置は、2023年4Q~2024年1Qに売上計上する見通し。

リードタイムは、足元では部材不足は解消しつつあるが、客先での検収作業長期化等を考慮し、9ヵ月程度と慎重に見ている。

Q:2023年2Qの受注見通しは？

A:スマートフォンについては、最終製品の市況が強くないが、高機能化ニーズは高いとみている。中華系スマートフォンは足元回復が遅れているが、電気自動車や新エネルギー関連のニーズが強い傾向にある。

Q:2024年以降の新製品比率の見通しは？

A:新製品の内訳は変わることが想定されるが、中期ビジョンとして開示している半導体光学関連や新エネルギー関係での新型装置の受注は、今後増える見通しである。

Q:2023年1Q売上のALD以外の新型装置13億円の中身は？

A:自動車向けやLED向け装置等が含まれる。

Q:自動車の見通しは？

A:2023年1Q売上のうち15%程度が自動車向けであり、2022年と比較し、2023年は比率が高まっている。今後は、自動車をはじめ半導体やAR/VRを中心にIoT分野向け装置の受注が伸びる見通しである。

以上